

1.	③	11.	①	21.	④	31.	④	41.	③
2.	④	12.	③	22.	②	32.	④	42.	③
3.	①	13.	①	23.	①	33.	②	43.	②
4.	④	14.	③	24.	①	34.	③	44.	①
5.	③	15.	①	25.	①	35.	④	45.	①
6.	②	16.	④	26.	④	36.	②	46.	②
7.	②	17.	④	27.	④	37.	③	47.	①
8.	①	18.	③	28.	④	38.	④	48.	③
9.	①	19.	③	29.	④	39.	③	49.	③
10.	③	20.	①	30.	①	40.	③	50.	②

1.

解答 ③

【解説】

正解は③「(～の) 左側に」です。道案内などで位置を説明するときに使う表現です。「on your left」で「あなたの左手に」となります。問題文は「あなたの左手に駅が見えますよ」という意味です。①「(～の) 右側に」は on one's right です。left と right はセットで覚えましょう。②「(～の) 真ん中に」は in the middle of ～、④「(～の) 向かいに」は across from ～ を使います。

◆補足：単に「左側に」と言いたい場合は“on the left”と言います。“one's”の部分に“my, your, his, her”などを入れることで、「誰から見て」左側なのかを明確にすることができます。

2.

解答 ④

【解説】

正解は④「magazine」です。写真や記事などが掲載された、定期的に発行される出版物、つまり「雑誌」のことです。「I like reading fashion magazines.」(私はファッション雑誌を読むのが好きです)のように使います。①「newspaper」は「新聞」、②「dictionary」は「辞書」、③「textbook」は「教科書」を意味します。

◆補足：「magazine」は、日本語では「マガジン」と言いますが、英語では「マガズィーン」のように、後ろを強く、長く発音します。発音にも注意してみましょう。

3.

解答 ①

【解説】

正解は①「one」です。この「one」は数字の「1」ではなく、前に出てきた名詞（この問題では bag）の代わりをする代名詞です。「a/an + 名詞」や「形容詞 + 名詞」の繰り返しを避けるときに使われます。「The red one」で「その赤いカバン」という意味になります。②「it」は「それ」と訳しますが、特定された一つのものを指すときに使います。③「some」は複数形の名詞の代わりです。④「that」は「あれ」と指し示すときに使います。

◆補足：複数形の名詞の代わりをする場合は「ones」を使います。例えば、「I don't like these shoes. I want to see the other ones.」（この靴は好きではありません。他のものを見たいです）のように使います。

4.

解答 ④

【解説】

正解は④「電話をかけ直す」です。「call」は「電話をかける」という意味で、「back」がつくことで「かけ直す」という、折り返しの動作を表します。「I'll call you back later.」（後でかけ直します）のように使います。①「電話を切る」は hang up、②「大声で叫ぶ」は call out、③「～を中止する」は call off と言い、それぞれ意味が異なります。

◆補足：人を間に入れて「A に電話をかけ直させる」と言いたいときは、「have A call me back」や「ask A to call me back」のような形を使います。

5.

解答 ③

【解説】

正解は③です。「How long ～?」は、物の「長さ」を尋ねる場合と、時間の「長さ（期間）」を尋ねる場合の二つの使い方があります。例えば、「How long is this bridge?」（この橋の長さはどのくらいですか？）や、「How long will you stay in Japan?」（どのくらい日本に滞在する予定ですか？）のように使います。①は How many、②は How much、④は How far を使います。

◆補足：long は「長い」という意味の形容詞ですね。How と組み合わせることで、「どのくらい長いのか？」と程度を尋ねることができます。How tall（身長は？）、How old（年齢は？）、How often（頻度は？）など、How + 形容詞/副詞のパターンはたくさんあります。

6.

解答 ②

【解説】

正解は②「～したい」です。「want to + 動詞の原形」の形で、「～したい」という願望を表す、非常に基本的な表現です。「I want to be a doctor.」（私は医者になりたいです）のように、将来の夢を語るなどにも使われます。①「～する必要がある」は need to do、③「～するつもりだ」は be going to do、④「～することができる」は can do や be able to do で表します。

◆補足：「want to」は、口語ではよく「wanna (ワナ)」と発音されます。友達同士のカジュアルな会話で使われることが多いです。例：I wanna go home. (家に帰りたいな。)

7.

解答 ②

【解説】

正解は②「around the world」です。「世界中を」または「世界中で」という意味で、場所が広範囲にわたることを示す表現です。「He traveled around the world.」（彼は世界中を旅した）のように使います。①「in front of the world」は「世界の目の前で」という意味になります。③「all over the country」は「国中を」という意味です。④「out of the world」は直訳すると「世界の外」ですが、「この世のものとは思えないほど素晴らしい」という意味で使われることもあります。

◆補足：「around」は「～の周りに」という意味の前置詞です。これを使って、「around the city」（街中を）や「around the school」（学校の周りを）のように、範囲を限定することもできます。「all over the world」も「around the world」とほぼ同じ意味で使われます。

8.

解答 ①

【解説】

正解は①「pretty」です。この「pretty」は「かわいい」という形容詞ではなく、「かなり、まあまあ」という意味の副詞です。「very」ほど強くはないけれど、思った以上であることを示すときに使います。「This movie is pretty good.」で「この映画はかなり良いね」というニュアンスになります。②「very」は「とても」、③「just」は「ちょうど」、④「always」は「いつも」という意味です。

◆補足：「pretty」は形容詞として「かわいい、きれいな」という意味で使われることの方が多いかもしれませんね。例えば「a pretty flower」（かわいい花）のように使います。副詞の「pretty」は、会話でよく使われる少しカジュアルな表現です。

9.

解答 ①

【解説】

正解は①「より良い」です。「better」は、「良い」を意味する good や well の比較級で、「(～よりも) もっと良い」という意味を表します。体調が回復したことを伝えるときにもよく使われ、「I feel better.」で「気分が良くなりました」となります。②「最高の」は最上級の best、③「悪い」は bad、④「最悪の」は bad の最上級 worst を使います。

◆補足：「get better」で「良くなる」という状態の変化を表します。例えば「I hope you get better soon.」(早く良くなることを願っています)のように、病気の人へのお見舞いの言葉としてよく使われます。

10.

解答 ③

【解説】

正解は③「退屈な、つまらない」です。「boring」は、映画や本、授業などが「人を退屈させる」ようなものであることを表す形容詞です。「This movie was so boring.」(この映画はとてもつまらなかった)のように使います。①「興奮させる」は exciting、④「興味深い」は interesting で、「boring」とは反対の意味を持つ言葉です。②「忙しい」は busy と言います。

◆補足：人が「退屈している」という気持ちを表すときは、-ed をつけた「bored」を使います。例えば、「I am bored.」(私は退屈しています)となります。「boring」は物事が主語に、「bored」は人が主語に来ることが多いと覚えておきましょう。

11.

解答 ①

【解説】

正解は①「先日、この間」です。「the other day」は、数日前から1～2週間前くらいの、あまり遠くない過去の不特定の日を指すときに使う便利な表現です。過去形の文で使われます。例えば、「I met him in the park the other day.」(先日、公園で彼に会いました)のように使います。②「毎日」は every day、③「いつか」は someday、④「別の日に」は another day と言います。

◆補足：day の部分を他の時の言葉に変えて、the other week (先週)、the other month (先月)、the other morning (この前の朝)のように使うこともできます。

12.

解答 ③

【解説】

正解は③「pilot」です。「pilot」は、飛行機やヘリコプターなどの航空機を操縦する「操縦士」を指す名詞です。「My dream is to be a pilot.」(私の夢はパイロットになることです)のように使います。①

「captain」は船の「船長」や、チームの「主将」、飛行機の「機長」を指します。②「driver」は車やバスなどの「運転手」です。④「engineer」は「技術者、エンジニア」を指します。

◆補足：「pilot」は動詞として「～を操縦する」という意味で使われることもあります。例えば、「He pilots a large airplane.」（彼は大型旅客機を操縦します）のように使えます。

13.

解答 ①

【解説】

正解は①です。「tonight」は「今日の夜」、つまり「今夜」を指す副詞または名詞です。「What are you going to do tonight?」（今夜は何をする予定ですか？）のように使います。②「明日」は tomorrow、③「昨日」は yesterday、④「毎晩」は every night と言います。

◆補足：tonight は at night や in the evening のように前置詞をつけずに、単独で「今夜に」という意味の副詞として使うことができます。例：See you tonight.（今夜会いましょう。）

14.

解答 ③

【解説】

正解は③「特売で、安売りで」です。「on sale」は、商品が通常より安い価格で売られている、いわゆる「セール中」であることを表す表現です。「This sweater is on sale now.」（このセーターは今、セール中です）のように使います。

◆補足：「セール」は英語の「sale」から来ていますが、日本語の「バーゲンセール」は和製英語です。英語では単に“sale”と言うのが一般的です。

15.

解答 ①

【解説】

正解は①「カボチャ」です。日本語でも「パンプキン」としておなじみですね。特にハロウィーンの時に、顔の形にくりぬいて作る「ジャック・オー・ランタン（Jack-o'-lantern）」で有名です。②「ジャガイモ」は potato、③「タマネギ」は onion、④「ニンジン」は carrot です。これらは食卓によく登場する野菜なので、セットで覚えておくと便利です。

◆補足：料理では、カボチャのスープ（pumpkin soup）やカボチャのパイ（pumpkin pie）などが人気です。欧米で一般的に「pumpkin」というとオレンジ色の大きなものを指しますが、日本でよく食べられる緑色のカボチャも含まれます。

16.

解答 ④

【解説】

正解は④「自然」です。「nature」は、山、川、森、動物、植物など、人間が作ったものではない、ありのままの世界を指す言葉です。「I like to be in nature.」（私は自然の中にいるのが好きです）のように使います。この意味で使われるとき、「nature」は数えられない名詞で、通常 a や the をつけません。①「文化」は culture、②「歴史」は history、③「未来」は future と言います。

◆補足：「nature」には「性質、本質」という意味もあります。例えば、「human nature」（人間性）のような使い方をします。形容詞の「natural」（自然な、当然の）も重要な単語です。例：It's natural to be nervous.（緊張するのは自然なことです。）

17.

解答 ④

【解説】

正解は④です。「how to + 動詞の原形」の形で、名詞と同じ働きをするかたまり（名詞句）を作ります。「～する方法」や「どうやって～したらよいか」という意味を表します。問題文は「あなたはこのコンピュータの使い方を知っていますか？」という意味になります。

◆補足：how 以外の疑問詞も to do と結びついて名詞句を作ることができます。what to do（何をすべきか）、when to do（いつすべきか）、where to do（どこですべきか）など、セットで覚えておくととても便利です。

18.

解答 ③

【解説】

正解は③「南の」です。「southern」は、方角の「南」を表す名詞「south」の形容詞形で、「南に位置する、南部の」という意味を表します。「Australia is a southern country.」（オーストラリアは南の国です）のように使います。①「東の」は eastern、②「西の」は western、④「北の」は northern と言います。

◆補足：4 つの方角を表す名詞は、東が east、西が west、南が south、北が north です。これらの単語に -ern をつけると形容詞の形になります。コンパス（方位磁針）などで “N, S, E, W” の文字を見たことがあるかもしれませんね。

19.

解答 ③

【解説】

正解は③「hundred」です。「hundred」は数字の「100」を表します。例えば、200 は two hundred、500 は five hundred のように言います。「a hundred」で 100 という意味を表すこともあります。①「thousand」は「1,000」、②「million」は「100 万」、④「billion」は「10 億」を意味します。

◆補足：「hundreds of 〜」という形で、「何百もの〜」という、漠然と数が多いことを表す表現もあります。例：There were hundreds of people in the park. (公園には何百人もの人がいました。) この場合、hundred に s がつくのがポイントです。

20.

解答 ①

【解説】

正解は①「a lot of」です。「a lot of 〜」は「たくさんの〜」という意味で、とても便利な表現です。なぜなら、②の「many」(たくさんの) が数えられる名詞 (books, apples など) にしか使えず、③の「much」(たくさんの) が主に否定文・疑問文で数えられない名詞 (water, time など) に使われるのに対し、「a lot of」は数えられる名詞と数えられない名詞の両方に使えるからです。④「some」は「いくつかの」という意味です。

◆補足：「a lot of」とほぼ同じ意味で「lots of」という表現もあります。こちらも数えられる名詞、数えられない名詞の両方に使え、少しカジュアルな響きになります。例：I have a lot of books. / I have lots of books. どちらも「私はたくさんの本を持っています」という意味です。

21.

解答 ④

【解説】

正解は④「〜を欠席している」です。「absent」は「欠席の、不在の」という意味の形容詞で、「be absent from 〜」の形で「(学校や会議など) を欠席している」という意味になります。例えば、「He was absent from school yesterday.」(彼は昨日学校を欠席しました) のように使います。③「〜に出席している」は be present at 〜 で、反対の意味の表現です。②「〜に遅刻している」は be late for 〜 と言います。

◆補足：「absent」の名詞形は「absence」(欠席、不在) です。風邪などで学校を休むことを伝えるときなどに使われる表現です。

22.

解答 ②

【解説】

正解は②「どうしたのですか？」です。相手の様子がいつもと違うときや、何か問題があるように見えるときに、心配して尋ねる表現です。「何か悪いことでもあったの？」というニュアンスです。①「これは何ですか？」は What's this?、③「お元気ですか？」は How are you?、④「何時ですか？」は What time is it?です。

◆補足：wrong は「間違った、調子が悪い」という意味の形容詞です。What's wrong with you?や What's the matter?も「どうしたのですか？」と尋ねる同じような表現です。返事をするときは、I have a headache. (頭が痛いんです) のように、具体的な症状や問題を伝えます。

23.

解答 ①

【解説】

正解は①「～すぎる」です。副詞「too」は、形容詞や副詞の前に置いて、「～すぎる」という、度が過ぎていて望ましくない状態を表します。問題文は「このコーヒーは熱すぎて飲めない」という意味になります。②「～もまた」という意味もあり、その場合は文の最後に置かれます (例：Me, too.)。③「とても」は very、④「ちょうど」は just を使います。

◆補足：「too ～ to do ...」の形で、「～すぎて…できない」という意味を表す構文は非常によく使われます。例：I was too tired to study. (私は疲れすぎて勉強できなかった。) この構文を覚えておくことで表現の幅が広がります。

24.

解答 ①

【解説】

正解は①Why don't you do?です。Why...?という疑問文の形ですが、理由を尋ねているのではなく、「～してはいかがですか」と相手に何かを提案したり、勧めたりするときに使う丁寧な表現です。

Why don't you ask the teacher? (先生に聞いてみたらどうですか?)。②「なぜ～したのですか?」、③「なぜ私が～すべきなのですか?」、④「なぜ～しているのですか?」は、それぞれ理由を尋ねる質問です。

◆補足：Why don't we ...?の形になると、「(一緒に) ～しませんか」と、自分を含むグループへの提案になります。Let's...とほぼ同じ意味です。Why don't we go to the park? (公園に行きませんか?)。

25.

解答 ①

【解説】

正解は①「どういたしまして。」です。「You're welcome.」は、誰かから「ありがとう (Thank you.)」と言われたときに使う、最も丁寧で一般的な返事の表現です。②の「ようこそ。」は、例えば

“Welcome to Japan.”（日本へようこそ）のように、誰かを歓迎するときに使います。③「また会いましょう。」は“See you again.”などと言います。④「お気の毒に。」は、相手に何か悪いことがあった時に同情を示す表現で、“I’m sorry to hear that.”などが使われます。

◆補足：「どういたしまして」の他の表現として、「Not at all.」や「Don’t mention it.」などもあります。これらも覚えておくと、表現の幅が広がりますよ。「You’re welcome.」が一番フォーマルで、どんな場面でも使える基本の形です。

26.

解答 ④

【解説】

正解は④「サラダ」です。「I eat salad every morning.」（私は毎朝サラダを食べます）のように使います。①「砂漠」は desert、②「給料」は salary、③「サンダル」は sandal で、どれもスペルや音が少し似ているので、しっかり区別して覚えましょう。

◆補足：「サラダにかけるドレッシング」は英語で“salad dressing”と言います。“Caesar salad”（シーザーサラダ）や“green salad”（グリーンサラダ）など、いろいろな種類のサラダがあります。

27.

解答 ④

【解説】

正解は④「enjoyable」です。「楽しむ」という意味の動詞「enjoy」に、「～できる」という意味の-able がついてできた形容詞で、「楽しい、楽しめる」という意味を表します。「The party was very enjoyable.」（そのパーティーはとても楽しかった）のように使います。①「useful」は「役に立つ」、②「peaceful」は「平和な」、③「careful」は「注意深い」という意味です。

◆補足：「enjoyable」は何か「楽しい経験を与えてくれる」という時に使います。似た単語に「fun」がありますが、「fun」は主に名詞で「楽しみ」という意味です。形容詞として「That was fun.」（それは楽しかった）のように使うこともできますが、「an enjoyable time」（楽しい時間）のように名詞を修飾するときは「enjoyable」を使うのが一般的です。

28.

解答 ④

【解説】

正解は④「一緒に、共に」です。副詞の「together」は、複数の人や物が「一緒に」何かをしたり、同じ場所にいたりすることを表します。「Let’s study together.」（一緒に勉強しよう）のように、動作を表す動詞と一緒によく使われます。①「別々に」は separately、②「一人で」は alone が近い表現です。③「特に」は especially と言います。

◆補足：「all together」で「全部一緒に、合計で」という意味を強調することができます。また、「get together」で「集まる」という意味の熟語になります。例：My family gets together on New Year's Day.（私の家族は元旦に集まります。）

29.

解答 ④

【解説】

正解は④「so」です。接続詞の「so」は、前に述べたことが原因・理由となり、その結果として後ろに続く文を結びつけるときに使います。「とても疲れていた」という理由から、「早く寝た」という結果になっているので、「so」（だから）が最も適切です。①「but」は「しかし」と反対のことを言うとき、②「and」は「そして」と話をつなげるとき、③「or」は「または」と選択肢を示すときに使います。

◆補足：「so」には「とても」という意味の副詞の働きもあります。例えば、「I was so tired.」（私はとても疲れていました）のように、形容詞や副詞を強調します。文のどこで使われているかによって意味が変わるので、注意しましょう。

30.

解答 ①

【解説】

正解は①「buy A for B」です。「buy」は「買う」という意味の動詞で、「A（物）をB（人）のために買う」と言うときは、前置詞 for を使ってこの形になります。これは、「buy B A」（BにAを買ってあげる）という形に書き換えることもできます。例：「I'll buy you a present.」②は「あげる」、③は「見せる」、④は「貸す」という動詞を使っています。

◆補足：make A for B（BのためにAを作る）、cook A for B（BのためにAを料理する）など、forを使う動詞は他にもあります。これらは「～してあげる」という、相手のための行為を表す動詞が多いのが特徴です。

31.

解答 ④

【解説】

正解は④「次回、今度」です。「next time」で「次にする時は、今度」という意味の副詞句になります。「Let's try again next time.」（次回、また挑戦しよう）のように使います。②「前回」は「last time」と言います。③「いつでも」は「anytime」です。①「次の時間」は、例えば授業なら next class のように、文脈によって言い方が変わります。

◆補足：誘いを断るときに、「Maybe next time.」（また今度ね）のように使うと、相手の気持ちを傷つけずに断ることができます。とても便利な表現です。

32.

解答 ④

【解説】

正解は④「A に B について話す」です。「tell」は「話す、伝える」という意味の動詞で、「tell A about B」の形で「A（人）に B（物事）について話して聞かせる」という意味になります。例えば、「Please tell me about your trip.」（あなたの旅行について私に話してください）のように使います。①「A に B を尋ねる」は ask A about B、②「A と B について話す」は talk with A about B、③「A に B を教える」は teach A B が近い表現です。

◆補足：「tell」は「tell A to do」（A に～するように言う）や「tell A B」（A に B を教える・伝える）など、様々な形で使われる重要な動詞です。過去形は told です。

33.

解答 ②

【解説】

正解は②「star」です。「star」は、夜空に見える「星」や、恒星を指す言葉です。「I can see a lot of stars tonight.」（今夜はたくさんの星が見える）のように使います。①「sun」は「太陽」、③「moon」は「月」、④「sky」は「空」を意味します。どれも空に関連する単語なので、混同しないようにしましょう。

◆補足：「star」には「人気スター、花形選手」という意味もあります。映画スター（a movie star）やサッカースター（a soccer star）のように使われます。文脈によってどちらの意味か判断しましょう。

34.

解答 ③

【解説】

正解は③「とてもおいしい」です。「delicious」は、食べ物や飲み物が「非常においしい」ことを表す形容詞です。単に「おいしい」という意味の tasty や good よりも、感動が伝わる言葉です。「This cake is absolutely delicious!」（このケーキは本当にとってもおいしい！）のように使います。①「甘い」は sweet、②「塩辛い」は salty、④「苦い」は bitter と言います。

◆補足：「delicious」は少しフォーマルな響きがあり、日常会話では「It's really good.」や「Yummy!」（おいしい！）といった表現もよく使われます。「Yummy」は特に子どもが使うことが多い言葉です。

35.

解答 ④

【解説】

正解は④です。「Why don't we ~?」は、直訳すると「なぜ私たちは～しないのですか?」となりますが、実際には相手を誘うときに使われる「(一緒に) ~しませんか?」という提案の表現です。Let's ~. や Shall we ~? と同じような意味で使われる、とてもポピュラーな言い方です。

◆補足：主語を you に変えて「Why don't you ~?」とすると、「～したらどうですか?」と相手にアドバイスする表現になります。例：Why don't you ask the teacher? (先生に聞いてみたらどうですか?)

36.

解答 ②

【解説】

正解は②「maybe」です。「たぶん、もしかしたら」という意味で、確信が持てないときに使われる副詞です。文の頭に置かれることが多いです。「Maybe he is sick.」(たぶん彼は病気なのだろう)のように使います。①「always」は「いつも」、③「surely」は「確かに」、④「never」は「決して～ない」という意味で、いずれも確信の度合いが maybe とは異なります。

◆補足：maybe とほぼ同じ意味で「perhaps」という単語もあります。「perhaps」の方が少しだけフォーマルな響きがあります。可能性の高さは、surely (確信) > probably (たぶん、十中八九) > maybe/perhaps (五分五分) のような順になります。

37.

解答 ③

【解説】

正解は③「～から遠い」です。「far」は「遠い」という意味の形容詞または副詞で、「far from ~」の形で「～から遠い」という距離を表す表現になります。例えば、「My house is far from the station.」(私の家は駅から遠いです)のように使います。④「～の近くに」は near や close to、①「～の前に」は in front of で表すのが一般的です。

◆補足：「～からどのくらい遠いのですか?」と距離を尋ねるときは、「How far is it from here to ~?」(ここから～までどのくらいの距離ですか?) という疑問文を使います。これはとても便利な表現なので覚えておきましょう。

38.

解答 ④

【解説】

正解は④「restaurant」です。日本語の「レストラン」と同じで、お金を払って食事をするお店のことです。①「cafeteria」も食事をする場所ですが、学校や会社などにあるセルフサービスの「食堂」を指

すことが多いです。②「library」は「図書館」、③「museum」は「博物館、美術館」という意味です。

◆補足：「restaurant」はフランス語由来の言葉です。イタリア料理店なら “Italian restaurant”、中華料理店なら “Chinese restaurant” のように、どんな種類のレストランかを前に付けて表現します。

39.

解答 ③

【解説】

正解は③「be ready to do」です。「ready」は「準備ができた」という意味の形容詞で、「be ready to do」の形で「～する準備ができています」という意味になります。「I'm ready to go.」（出かける準備ができています）のように使います。①「be able to do」は「～することができる」、②「be going to do」は「～するつもりだ、～するだろう」、④「be sure to do」は「きっと～する」という意味で、それぞれ意味が異なります。

◆補足：「準備はいいですか？」と相手に尋ねる時は、「Are you ready?」と言います。スポーツのスタートの合図「Ready, set, go!」（位置について、用意、ドン！）でもおなじみですね。「to do」の代わりに名詞を続けて「be ready for ～」（～の準備ができています）という形もよく使います。例：Are you ready for the test?（テストの準備はできていますか？）

40.

解答 ③

【解説】

正解は③「～の世話をする、～の面倒を見る」です。「take care of ～」は、人や動物、植物などの「世話をする」という意味で幅広く使われる熟語です。例えば、「She takes care of her little brother.」（彼女は弟の面倒を見ています）のように使います。①「～に気をつける」は be careful of、②「～の写真を撮る」は take a picture of で表現します。④「～を大事にする」は cherish や value などの単語があります。

◆補足：別れの挨拶で言う「Take care!」は「気をつけてね!」「お元気で!」という意味になります。これは “Take care of yourself.” を短くした形です。また、「take care of ～」は「(仕事などを)引き受ける、処理する」という意味で使われることもあります。

41.

解答 ③

【解説】

正解は③「もっと、より多くの」です。「more」は、すでにあるものに加えて「さらに多くの」という意味を表します。問題文の “Could I have some more water?” は「お水をもう少しいただけます

か？」という、おかわりを頼むときの丁寧な表現です。①「ほとんどの」は **most**、②「いくつかの」は **some**、④「少しの」は **a little** や **a few** を使って表現します。

◆補足：**more** は長い単語の比較級を作るときにも使います。例えば、**beautiful** の比較級は **more beautiful** (より美しい) となります。また、「**one more time**」(もう一回) や「**a little more**」(もう少し) のような便利なフレーズも覚えておきましょう。

42.

解答 ③

【解説】

正解は③「カップ一杯の～」です。**a cup of** ～は、コーヒーや紅茶など、取っ手のついたカップで飲むものの量を表すときに使います。「**I'd like a cup of coffee.**」(コーヒーを一杯ください) のように使います。

◆補足：**coffee** や **tea** などの飲み物は、それ自体は数えられない名詞ですが、**a cup of** のような表現を使うことで、「一杯、二杯」と数えることができるようになります。二杯なら “**two cups of coffee**” となります。

43.

解答 ②

【解説】

正解は②**angry** です。この形容詞は、何かに不満や不快感を覚えて「怒っている」状態を表します。**He was angry with me for being late.** (彼は私が遅刻したことに腹を立てていた)。**①anxious** は「心配して」、**③hungry** は「空腹で」、**④happy** は「幸せな」という意味です。

◆補足：**angry** の名詞形は **anger** (怒り) です。**mad** も「怒って」という意味で使われますが、**angry** よりも口語的で、より強い怒りを表すことがあります。

44.

解答 ①

【解説】

正解は①「(バス・電車などから) 降りる」です。「**get off**」は、バスや電車、飛行機などの公共交通機関から「降りる」ときに使う表現です。②「(バス・電車などに) 乗る」の「**get on**」とは反対の動きですね。「**I have to get off at the next station.**」(私は次の駅で降りなければなりません) のように使います。③「～から出ていく」は **get out of** ～、④「～を脱ぐ」は **take off** と言います。

◆補足：「**get on/off**」は比較的大きな乗り物に、「**get in/out of**」は小さな乗り物に使うと覚えましょう。例えば、自転車に乗るは **get on a bike**、自転車から降りるは **get off a bike** です。

45.

解答 ①

【解説】

正解は①「～のように見える」です。look は「(じっと) 見る」という動詞ですが、look + 形容詞の形で「～のように見える」という意味で使われることが非常によくあります。例文は「今日は幸せそうに見えますね」という意味です。②「～のように聞こえる」は sound、③「～の味がする」は taste、④「～の匂いがする」は smell です。

◆補足：look の他にも、seem や appear も「～のように見える」という意味で使われます。look A で「A を見る」という意味ですが、look at A で「A に目を向ける」、look for A で「A を探す」など、後ろにつく単語によって意味が変わるので注意しましょう。

46.

解答 ②

【解説】

正解は②「もちろん、当然です」です。「Of course.」は、相手の言ったことに対して「もちろんその通りです」と強く同意したり、依頼に対して「もちろんいいですよ」と快く承諾したりするときに使う表現です。「Can I use this pen?」「Of course.」(このペンを使ってもいいですか?) (もちろんです) のように使います。①、③、④はそれぞれ異なる状況で使われる返事です。

◆補足：Of course は「当然のこと」というニュアンスが強いため、場面によっては少し失礼に聞こえることもあります。例えば、目上の人からの簡単な依頼に Of course. と答えると、「当たり前じゃないですか」という意味に取られる可能性も。そのような場合は「Certainly.」や「Sure.」を使う方が無難です。

47.

解答 ①

【解説】

正解は①「just」です。副詞の「just」は、現在完了形と共に使うと「ちょうど～したところだ」という完了したばかりの動作を表します。過去形と共に使うと「たった今～した」という意味になります。問題文は「彼はちょうど家に帰ってきたところです」となります。②「still」は「まだ」、③「yet」は否定文・疑問文で「まだ、もう」、④「already」は「すでに」という意味で、それぞれ使い方が異なります。

◆補足：「just」には他にも「単に、ただ～だけ」(例：I'm just looking. 見ているだけです) や、「ちょうど、まさしく」(例：This is just what I wanted. これはまさしく私が欲しかったものです) など、たくさんの意味があります。

48.

解答 ③

【解説】

正解は③「call」です。「call」にはたくさんの意味がありますが、最もよく使われるのが「電話をかける」という意味です。「I'll call you later.」（後で電話します）のように使います。また、「（名前などを）呼ぶ」という意味もあり、「Please call me Ken.」（ケンと呼んでください）のように使われます。

①「tell」は「伝える」、②「ask」は「尋ねる」、④「say」は「言う」という意味です。

◆補足：「call back」で「電話をかけ直す」という意味になります。例：Can you ask him to call me back?（彼に電話をかけ直すよう頼んでくれませんか？）また、名詞として「a phone call」（電話）という意味でも使われます。

49.

解答 ③

【解説】

正解は③「never」です。「never」は「決して～ない」「一度も～ない」という、強い否定を表す頻度の副詞です。「I have never been to America.」（私は一度もアメリカへ行ったことはありません）のように、現在完了形の経験を表す文でよく使われます。①「always」は「いつも」、②「often」は「しばしば、よく」、④「sometimes」は「時々」という意味で、これらはすべて肯定的な頻度を表します。

◆補足：never は not ... ever（今までに一度も...ない）を短くした形と考えることができます。never 自体が否定の意味を持っているので、文の中に not を一緒に入れる必要はありません。例えば“I don't never go.” は間違いで、“I never go.” と言います。

50.

解答 ②

【解説】

正解は②「under」です。「～の下に」という意味で、何かの真下にある位置関係を表す最も一般的な前置詞です。「The cat is sleeping under the table.」（その猫はテーブルの下で眠っています）のように使います。①「on」は「～の上に（接して）」、③「in」は「～の中に」、④「over」は「～の真上に（離れて）」や「～を覆って」という意味です。

◆補足：under には「～未満」という意味もあります。例えば、「children under six」（6歳未満の子供たち）のように使います。また、「工事中」を意味する“under construction”もよく見かける表現です。
